

## 2022 年 EBRS 体験記@チューリッヒ (スイス)

李 若詩<sup>✉</sup>

筑波大学大学院 人間総合科学研究群 医学学位プログラム 櫻井・平野研究室

筑波大学大学院人間総合科学研究群医学学位プログラム博士課程 3 年、櫻井・平野研究室所属の李です。新型コロナウイルス感染症流行のため、博士課程で海外の学会に参加するのは 2022 年スイスのチューリッヒで開催された European Biological Rhythms Society の学会が初めてとなります。学生の間で国際学会に参加したいと考えておりましたが、学会参加申請時、大学の方針により学生の海外渡航が制限されていたため、学会の直前まで参加できるか不明な状況で、最終的に参加できたことは本当に幸いだと感じております。今回の学会は本来 2021 年の開催予定でしたが、パンデミックのため、2022 年に延期されました。去年は Trainee Day のみオンラインで開催されました。その Trainee Day に参加したところ、サイエンスだけでなく、キャリアや学習方法など様々な講演を聞くことができ、来年もぜひ学会とともに参加したいと感じ、さらには Trainee Day のオーガナイザーにも加入することになりました。Trainee Day のオーガナイザーは各国の学生や若手研究者で作成されており、Trainee Day の実行や運営に関わっております。

学会期間中、他の学生との交流と経費節約のため、学会が提供したルームシェアシステムを利用して、トルコの博士課程の学生と同じ部屋に泊まりました。お互い初対面でしたが、自然と会話が進みました。

Trainee Day の当日、私はオーガナイザーであったため、自分が担当するセッションの座長と他セッションの手伝いを行いました。昼休みの時間には交流タイムがあり、ランチの後、参加者は同じテーブルにいる 4~6 人の人と会話し、5 分毎に違うテーブルに移動して新しい人と話すイベントを行いました。最初は皆緊張しておりましたが、徐々に空気が和み、みんな楽しく会話しておりました。座長と手伝い以外の時間は講演に参加することができました。本学会とは異なり、Trainee Day はだいぶリラックスした雰囲気、講演者の先生方が自由な形式で様々なトピックについて話してくださいました。先生方がクイズを出し、参加者が答えるという形式の講演や、数名の先生方が集まって参加者と語り合うディスカッション形式のセッションもありました。もちろん、データ解析手法、時間生物の実

験手法などサイエンスのセッションもありましたが、各国の研究状況の紹介の様な学生や若手研究者が気になる役立つ情報を提供するセッションや、国際的にも問題になっている博士学生のメンタルヘルスに関するセッションもありました。参加者たちも楽しく Trainee Day に参加し、活発に討論と交流をしておりました。

Trainee Day が終わった夕方より本学会が始まりました。学会自体は 5 日間に渡り開催されました。分子生物学的機構から、臨床的応用まで、幅広いトピックのシンポジウムがありました。今回の学会では、日本時間生物学会のメンバーが発表する特別なシンポジウムもあり、八木田先生、土居先生、吉種先生など有名な先生方とともに自分の研究について 15 分間紹介する時間を与えていただき、大変貴重で有意義な経験をすることができました。シンポジウムでの発表は初めてだったのですが、会場が穏やかな雰囲気だったためか、案外緊張することなく発表をすることができ、多くの方より質問やアドバイスをいただきました。シンポジウム以外にも、ポスター発表も行いました。有名な先生方が自分のポスターまでいらっしや、30 分間に渡って研究内容について熱く語り合い、自分では気づかなかったデータの特徴や新たな解析の手法などをアドバイスしていただきました。

今回の学会では毎日イベントが何かしらあり、研究以



2022 EBRS Trainee Day オーガナイザー。下段右端は著者で、下段左端が大会長でもある Steven Brown 先生。

✉ s2030405@s.tsukuba.ac.jp



EBRS 夕食会 (Züri Gastro)

外でもチューリッヒや交流を楽しむ機会がありました。学会 2 日目のタンゴショーではみんなが長いテーブルを囲ってスイスの涼しい夕方の風にあたりながら食事し、南米の伝統的なタンゴを鑑賞しました。3 日目は Steven Brown 先生の研究室のメンバーが案内するスイスの様々な人気なレストランで、それぞれの参加者が興味のあるレストランで夕食を楽しむイベント (Züri Gastro) がありました。4 日目の午後は丸々ツアータイムとなっており、ハイキング、湖クルーズ、チョコレート作りやチューリッヒの街ツアーなど豊富な企画の中から選べるようになっておりました。私はチューリッヒ湖のクルーズに参加し、3 時間暖かい太陽にあたりながらチューリッヒのきれいなヨーロッパ風の建築や湖の風景を眺めながら過ごしました。その後はチューリッヒ街ツアーに参加し、街の歴史や特徴について勉強しました。

今回の学会参加は、世界情勢のため航空券が高かつ

たり、大学の許可が下りなかったり、参加をためらうようなこともありましたが、実際参加したところ、想像よりもより大きな収穫がたくさんありました。私の発表を熱心に聞いてくださった方より貴重な指摘をたくさんいただきました。自分の限られた知識や能力では到底気づけなかったようなことにはっと気づかされたことが、この 5 日間だけでも何度もありました。たったの 10 分の会話が新たな可能性を見出すきっかけとなり、次々とアイデアが湧いてきました。そして、何より、多くの国々の研究者と会って語り合うことができました。毎日学会後に知りあつたばかりの様々な国の参加者でおいしいごはんを食べ、研究、生活、将来の話をしたのが何よりの思い出です。学会自体はたったの 5 日間でしたが、その間に新たにできた友人とはその後もつながっており、お互いの研究について議論したり、実験に関してアドバイスしあったり、今後の学会で会ったときもまた懐かしく語り合うことになると思います。

この貴重な経験をするサポートとなってくくださった研究室の先生方、PCR 検査やフライトなど現地で色々お世話になった一緒に日本より学会に参加した方々、また今回の学会の運営に携わっていた方々には深く感謝しております。

この集いに参加させていただき、私は多くの話を聞くことができました。この素敵な経験は今後の研究や生活に良い影響をもたらしてくれると思います。



EBRS 2022 Congress 参加者集合写真